

# 114 大正時代 社会運動の勃興 (大正デモクラシー)

## 大正時代のイメージ

・明治時代以上に格差が大きな社会に

大戦景気で一握りの財閥や船成金が大もうけ、しかし大多数の民衆は物価高騰にあえぎました。都市と農村の格差もさらに拡大しました。民衆は平等の実現を願い、参政権を要求しました。

・教育の普及、民衆の知識・教養の高まり

1900年の義務教育無償化、1917年の原敬内閣の「大学令」公布などの効果で、大学生の数も増えた民衆や女性、酷使される労働者、被差別部落民も権利意識を一層深めました。

1911 **青鞥社** 結成( 平塚らいてう )

女性解放を目指す女流文芸団体です。雑誌『青鞥』を創刊。「元始、女性は太陽であった。しかるに今は月である。」青鞥とはアメリカでの女性解放運動であるブルーストッキング運動の邦訳です。

1912 **友愛会** 結成( 鈴木文治 )

大逆事件後、労働運動はしばらく低迷しました。しかし鈴木文治(吉野作造の教え子)が友愛会を組織して労働運動を活性化しました。戦闘的ではなく、資本家との労資協調を重んじました。

1916 吉野作造 が **民本主義** を提唱

総合雑誌『中央公論』に「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を発表。天皇主権のもとでの民衆本位の政治を主張

1916 工場法施行 → 在華紡 進出

少年・女性の深夜業禁止や 12時間労働制が実現 財閥は工場法が適用されない 海外の中国に工場進出

1917 河上肇 が『貧乏物語』連載

1918 東大新人会 吉野作造が結成した、普通選挙実現を目指すための学生団体(新人会)と

1918 黎明会 知識人団体(黎明会)です他に早大建設者同盟も。

1919 猶存社 結成(北一輝ら)

格差問題解決のため、軍部クーデタで財閥と結ぶ政党と財閥を打倒し、華族制度の廃止、女性参政権、天皇親政を目指す右翼団体

『日本改造法案大綱』(1923 北一輝)

二二六事件を起こした青年将校のバイブルでした。

1920 **新婦人協会** ( 市川房枝、平塚らいてう )

女性の参政権や女性の政治集会参加を禁じた治安警察法第5条改正を目指す団体です。

1920 戦後恐慌 始まる

1920.5.1 最初の メーデー 開催

労働者の祭典であるメーデーを鈴木文治が主催して初めて実現しました。会場は東京の日比谷公園です。

1921 **赤闌会** 結成( 山川菊枝、伊藤野枝 )

社会主義的改革を目指す女性団体です。赤は社会主義のカラーです。目標は女性の窮乏、無知、戸主への隷属からの解放です

1922 **治安警察法第5条改正** 実現

女性が政治集会に参加するのを禁じていた治安警察法第5条を撤廃させました。

1922 **日本労働総同盟** 結成( 鈴木文治 )

戦後恐慌の中で資本家は労働者を酷使するばかりでした。そのため鈴木文治の友愛会は、これまでの労資協調主義を転換しました(戦闘的な労働組織に変えました)。

1922 **全国水平社** 結成( 西光万吉 )

被差別部落の人々も立ち上がりました(京都岡崎公会堂)。日本最初の人権宣言とよばれる「水平社宣言」を出しました。

1922 **日本農民組合** 結成( 賀川豊彦ら )

寄生地主制に苦しむ小作農の全国組織ができました(神戸に本部)。小作料の減免、小作料の金納化、耕作権の確立の3つを求めてたたかいました。賀川豊彦、杉山元治郎の2人が中心です。1924年に小作農と地主の争いを裁判で調停する小作調停法ができましたが、寄生地主制の根本的解決にはなりませんでした。

1922 **日本共産党** 堺利彦、山川均)

行き過ぎた資本主義のなかで貧富の格差が拡大、生活が破綻した貧民が増加する中、社会主義革命で一挙に解決を図ろうとする非合法の社会主義政党です。ソ連が作った世界革命を目指す指導部である「コミンテルンの日本支部」として成立しました。共産党は戦前は「合法的だったことは一度もない」です。

無政府主義( アナーキズム )運動

国家(政府)が諸悪の根源であり、国家(政府)が存在しなくなることによって問題は解決するという主義です。ロシア(ソ連)の無政府主義にクロボトキンがいます。日本には大杉栄がいました。

1920 **森戸事件** (原内閣)

学問の自由の弾圧事件の一つです。東京帝国大学経済学部の森戸辰男がクロボトキンの思想を翻訳・紹介し、鳩山一郎文部大臣によって東大休職処分となった事件です。黎明会が抗議しました。

1924 婦選獲得期成同盟会

女性参政権(婦人参政権)の獲得を要求する団体です。しかし実現したのは戦後になってからでした(戦前は実現しなかった)